

# 令和5年度 学校自己評価システムシート (県立大宮商業高等学校 定時制課程)

目指す学校像	地域とともに未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒を育成する
--------	--------------------------------

重点目標	1 授業改善により、生徒の主体性を育み、学習習慣の確立と学力を定着させる 2 キャリア教育の充実により、生徒の進路意識を高め、進路実現を支援する 3 地域・保護者・外部団体との連携強化と教育活動の効果的な情報発信により、愛され信頼される学校をつくる 4 コミュニケーション能力の育成により、チャレンジ精神に溢れたたくましい人財をつくる
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<現状> ○少人数のため、対話的な授業展開により、学びやすい環境にある。 ○主体的に学ぶことができる生徒は少ない。 <課題> ○「主体的・対話的で深い学び」となる授業実践の工夫が必要なこと。 ○義務教育段階で不登校を経験している生徒が多いため、基礎学力の定着、検定試験合格率向上の具体策が必要なこと。	○生徒に「主体的に学ぶ方法」を学習させ、基礎学力を定着させる。  ○各種検定試験への参加者及び合格者を増加させる。	①生徒の学習への興味・関心を引き出すために、ICTを活用する。 ②授業の展開の中で生徒が成功体験を積み重ねることができる場面を増やす。 ③学習習慣の確立と学力を定着させるために、生徒の到達度に応じた学習支援が行えるよう、教職員全体で生徒の情報を共有する。 ④自ら問題解決に取り組むために図書館の利用を増加させる。 ⑤実施される主な検定試験の一覧を示し、各種検定試験の積極的な受験を促す。	①各学期における欠点保有率が昨年度に比べ減少したか。(各学期10%以下であったか。) ②アンケートにおける授業満足度が年間を通して90%以上であったか。 ③図書館での授業が増加したか。 ④図書貸出数が増加したか。 ⑤検定試験の合格率が昨年度と比較して増加したか。		
2	<現状> ○キャリア・パスポートと外部の人的資源の効果的な活用で、進路行事が充実したことで、進路意識の高い生徒が増加している。一方、主体的に進路活動を行う生徒とそうでない生徒の差がある。 <課題> ○進路活動の取組がおそい生徒への対応。 ○生徒の希望職種と求人とのミスマッチへの対応。 ○低学年の生徒の進路意識が低いこと。	○キャリア・パスポートを活用した進路指導が実践させる。  ○自主的、主体的に進路活動を行わせる。  ○生徒の希望職種と求人のミスマッチを解消する取り組みをする。 ○低学年から進路意識を向上させる取り組みを行う。	①キャリア教育を充実し、進路活動のためにキャリア・パスポートを授業で用いる。 ②4年間を見通した進路関係のLHRの計画、キャリア・パスポートの活用、行事の実施について定着させる。 ③外部の人材を活かした進路行事を企画し、実施する。 ④定期的に進路だよりを発行する。	①キャリア・パスポートを活用し、主体的な進路活動ができたか。 ②各種の進路行事を通して、生徒の更なる進路意識が向上したか。 ③ハローワーク、外部業者、就職支援アドバイザーの有効活用により、新しい進路行事ができたか。 ④進路情報誌や進路通信を配布し、正しい進路情報を生徒に伝えられたか。		
3	<現状> ○ホームページのアクセス数が伸びているが、学校見学の問い合わせや参加者数の増減は少ない。 <課題> ○本校志願者数を確保する必要がある。 ○保護者や地域との連携を模索する必要がある。	○ホームページの更新頻度を増やし、アクセス数を更に伸ばす。  ○志願者数を増加させる。  ○保護者や地域と連携できる機会を増やす。	①行事等が行われた時はもちろん、日々、定期的にホームページを更新する。 ②本校のPRのために学校案内等を積極的に配布する機会を設ける。 ③PTA活動を積極的にに行い、授業参観等、保護者が来校しやすい環境を整える。 ④ボランティア活動等で生徒を地域の行事に参加させる。	①ホームページの更新数、アクセス数が昨年度と比べて増加したか。 ②学校見学希望者が昨年度より増加したか。 ③志願者が昨年度より増加したか。 ④体育祭や予餞会等の学校行事を含め、保護者の来校機会を、各学期に1回以上年間5回以上設定したか。 ⑤地域の行事に参加した生徒がいたか。		
4	<現状> ○生徒は、概ね落ち着いた学校生活を送っている。 ○立哨指導、巡回指導で生徒とのコミュニケーションを深めている。 ○長期欠席者は少ない。 <課題> ○生徒が抱える悩みが多様化しており、生徒が相談しやすい体制を確立する必要がある。	○生徒への積極的な声かけや信頼関係づくりを行う。  ○安心・安全な学校生活を送れる環境を作り、不登校(長期欠席)を未然に防止する。	①生徒理解を深めるために、日々の立哨指導や巡回指導を継続する。 ②不審者侵入防止対策を行う。 ③不安を抱える生徒の情報を共有し、必要に応じて外部機関とも連携をする。 ④スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの効果的な対応のために来校日を周知する。	①転学者数及び退学者数が昨年度より減少したか。 ②不審者侵入防止対策が実行できたか。 ③長期欠席者数が昨年度より減少したか。 ④スクールカウンセラーの及びスクールソーシャルワーカーの活用で改善が見られた生徒がいたか。		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和6年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	